



誤 飲

観察のポイント

- 子どもの事故で多い、誤飲・誤食による中毒は、ハイハイや、つたい歩きができるようになり行動範囲がグンと広がると、ちょっとした油断で起きてしまいます。ものによっては、少量でも生命の危険がありますので、子どもの周りに危険なものを置かないようにしましょう。

まず、何を飲んだかという情報が大切です。

医薬品、洗剤、消臭剤、殺虫剤などの場合は、受診の際に、その成分がわかるような説明書や箱、ピンなどを必ず持参してください。



しばらく様子を見てもよい場合

- たばこを少し(2, 0cm)だけかじった。
- 顔色がよく、吐き気や嗚咽(声をつまらせて泣く)、せき込みがない。
- プラスチック、紙、ビニール、クレヨン、鉛筆の芯をかじったり、インク、絵の具をなめた、アトピー用軟膏を食べた。

早めに救急外来を受診した方がよい場合

- 飲み込んだとたん to たんにせきが始まった。
(気管や気管支に異物が入った可能性があります。)
- 医薬品、洗剤、殺虫剤などを飲んだ。
- けいれんを起こしている。
- 意識がない。
- 顔色が悪い。
- 呼吸の状態がおかしい。
- 吐き気や嘔吐がある時。
- タバコを消した液体を飲んだ。
- 灯油を誤飲したかもしれない場合。
(疑いでも、灯油が服についただけでも)

誤飲

意識はありますか？

なし

ある

飲んだものはどれですか？

何を飲んだか
分からない。

- ボタン電池
- 硬貨
- 灯油
- ベンジン
- 除光液
- 洗浄剤
- 漂白剤
- しょうのう
- 小玩具
など

- タバコ
- ホウ酸団子
- ナフタリン
- パラジクロル
ベンゼン
- 大量の医薬品
など

- 化粧品
- シャンプー
- 芳香剤
- せっけん
- クレヨン
- シリカゲル
- マッチ
- 粘土
- 保冷剤
- 水銀
- 植物活性剤
など

吐かせてはいけません

すぐに吐かせましょう

経過観察をしましょう

小児科医のいる医療機関を受診してください。

救急車を
呼びましょう！

ただし、症状が大きく変わったら小児科医のいる医療機関および休
日夜間急患センター等を受診してください。